

会社概要

商号 林兼産業株式会社
本店所在地 〒750-8608
山口県下関市大和町二丁目4番8号
TEL (083) 266-0210 FAX (083) 266-1266
主要製品 食肉加工品(キリンマハム)・肉類(霜島黒豚)
魚肉ハム・ソーセージ
機能性食品(エラスチン・ソフミート)
養魚用飼料

役員一覧

2020年9月30日現在

取締役社長 (代表取締役)	中 部 哲 二
常務取締役 水産・機能食品 事業部長	岡 本 伸 孝
取締役 (社外・非常勤)	岩 村 修 二
取締役 (社外・非常勤)	牟 田 実
取締役 畜産食品事業部長 兼東京支社担当 兼大阪支社担当	三 井 宏
取締役 管理本部長 兼品質保証部担当	高 田 啓 吾
取締役 飼料事業部長	三 代 健 造
取締役 経営企画室長	宮 崎 一 郎
常任監査役 (社外・常勤)	山 本 昌 信
監査役 (非常勤)	川 崎 哲 彦
監査役 (社外・非常勤)	桑 原 望
監査役 (社外・非常勤)	三 田 村 知 尋

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
特別口座の口座管理機関 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
連絡先 電話 0120-232-711(通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)

公告の方法 電子公告により行う



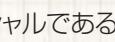
この報告書は、FSC®認証紙と、
環境に優しい植物油インキを
使用して印刷しています。

コーポレートロゴを
変更しました!

創業
80周年!



当社は今期、創業80周年を迎えます。この節目の年
にあたり、役職員の結束を高めるとともに、当社の認知
度向上を推し進めるべく、このたびコーポレートロゴを
変更いたしました。

シンボルマークのは、当社のイニシャルである“H”
と“S”からデザインし、色は、従来のと同じ伝統的
な赤色を使用いたしました。どっしりとした安定感のある
デザインとすることで、歴史と伝統を誇る企業としての
威風堂々とした姿を、また横に波打つ“S”のデザインによ
り、その歴史と伝統を将来に継承していく様子を表現し
ています。

今後は新生「Hayashikane」
として、更なる飛躍を目指してまい
ります。



当社ホームページでIR情報等が
ご覧いただけます。

<http://www.hayashikane.co.jp/>

林兼産業

検索

証券コード | 2286

With you

第82期

中間期

株主通信

2020年4月1日～2020年9月30日



社長から皆さまへ

株主の皆さまに第82期中間株主通信をお手もとにお届け
申しあげるにあたりまして、日ごろのご愛顧とご支援に厚く御
礼申し上げます。

当中間期の当社グループの売上高は、巣ごもり需要が高ま
り家庭用食品の販売数量が増加したものの、外食産業・ホテル
向けの業務用食肉加工品の販売数量が減少したことなどによ
り、223億73百万円(前年同期比0.1%減少)となりました。
損益面におきましては、販売費および一般管理費が減少したこ
となどにより営業利益は6億28百万円(前年同期比9.2%増
加)、営業外収支の改善により経常利益は7億20百万円(前
年同期比13.0%増加)となりました。親会社株主に帰属する
四半期純利益は、賃貸用不動産(大阪市港区)の売却益7億
81百万円の計上もあり10億3百万円(前年同期比187.2%
増加)となりました。

当社グループは本年4月からの2ヵ年を「将来を見据えた磐石
な事業基盤の確立」の期間と位置付け、「新中期経営計画
〈挑戦〉challenge2022」(2021年3月期～2022年3月期)
をスタートさせました。本計画の基本方針である「成長投資の推
進」「事業ポートフォリオの検討」「財務健全性の強化」「コー
ポレートガバナンスの強化」に沿った諸施策により、経営資源の選
択と集中による構造改革を進めて収益基盤の改善を図るととも
に、安定的な利益確保に
向けた構造強化を図り、持
続的な事業発展を目指して
まいります。今後とも一層の
ご支援、ご鞭撻を賜りますよ
うお願い申し上げます。

2020年12月

取締役社長

中部 哲二



※「新中期経営計画〈挑戦〉challenge2022」の詳細につきましては、当社ホーム
ページ「中期経営計画」をご参照ください。
[<http://www.hayashikane.co.jp/ir/managementplan/>]



セグメント概況

[水産・機能食品事業]



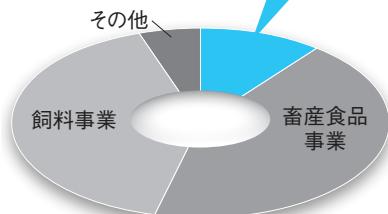
魚肉ねり製品は、巣ごもり需要の高まりから販売数量が増加したことで、増収となりました。

機能性食品は、中国向けの輸出が減少したことにより、減収となりました。

これらにより、売上高は23億98百万円(前年同期比0.1%減少)となりました。

セグメント別売上高

23億98百万円
(前年同期比0.1%減)



[畜産食品事業]



ハム・ソーセージ等食肉加工品は、外食需要の減少により販売数量が減少したことで、減収となりました。

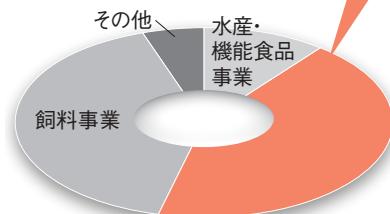
肉類は、豚肉および牛肉の販売数量が増加したことにより、増収となりました。

調理食品は、巣ごもり需要の高まりから冷凍食品・レトルト商品向け具材の販売が好調であったことにより、増収となりました。

これらにより、売上高は96億71百万円(前年同期比1.8%増加)となりました。

セグメント別売上高

96億71百万円
(前年同期比1.8%増)



[飼料事業]



養魚用飼料は、養殖魚の需要低迷に伴い販売数量が減少したことにより、減収となりました。

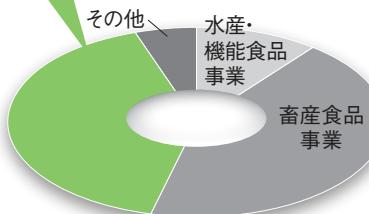
水産物は、取り扱い量が増加したことにより、増収となりました。

畜産用飼料は、養豚用飼料の販売数量が減少したことにより、減収となりました。

これらにより、売上高は91億58百万円(前年同期比0.6%減少)となりました。

セグメント別売上高

91億58百万円
(前年同期比0.6%減)



連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (2020年9月30日)
資産の部	
流動資産	16,266
固定資産	14,271
有形固定資産	10,283
無形固定資産	17
投資その他の資産	3,970
資産合計	30,537
負債の部	
流動負債	14,098
固定負債	6,620
負債合計	20,718
純資産の部	
株主資本	8,095
資本金	3,415
資本剰余金	8
利益剰余金	4,678
自己株式	△7
その他の包括利益累計額	862
その他有価証券評価差額金	881
繰延ヘッジ損益	△0
退職給付に係る調整累計額	△19
非支配株主持分	861
純資産合計	9,818
負債純資産合計	30,537

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	22,373
売上原価	18,808
売上総利益	3,565
販売費及び一般管理費	2,936
営業利益	628
営業外収益	176
営業外費用	84
経常利益	720
特別利益	808
特別損失	48
税金等調整前四半期純利益	1,480
法人税、住民税及び事業税	472
法人税等調整額	△37
四半期純利益	1,045
非支配株主に帰属する四半期純利益	42
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,003

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

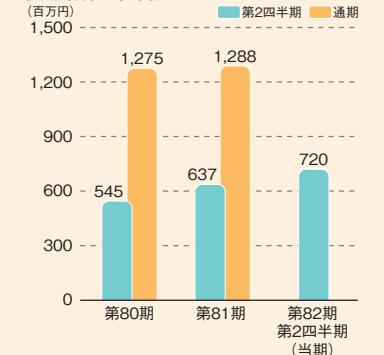
(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△209
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,037
財務活動によるキャッシュ・フロー	△867
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△40
現金及び現金同等物の期首残高	1,551
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,511

○連結売上高



○連結経常利益



○親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

